



機帆船も道路に打上げられた (天草郡天草町)



破壊された民家 (牛深市)



たんぼに打上げられた船・稲も塩害で真白になつた (天草郡荅北町)



災害地に急行した知事・県議団 (天草郡天草町)

ら中学と小学へ通っているが、学級での素行もよく、成績が振わないからといって卑屈な気持ちになる子も見当らぬようである。

気をつかう子供への思いやり……………★

童園では、子供たちに対して温い家庭的な雰囲気を与えることに気を配っている。修学旅行に行きたい子供には、無理をしても費用を積立て、やり、両親のある子供たちと同様にお小遣いも持たせてやる。旅行から帰った子供が五〇〇円足らずのお小遣いを殆んど無駄づかいもせず、園長たちにおみやげを買ってくる。ときなどは、実の子以上にいとしくなるといふ。

こゝに収容されている子供はみな不幸な事情を背負ってきたが、その中で一番多いのが私生児。次に家庭の不和と離婚などによる引取り児。この童園へ収容されるまでの経路は、すべて児童相談所を経由してくる。県内各地の子供が多いが、県外の子供もいる。

遠い親と子の距離……………★

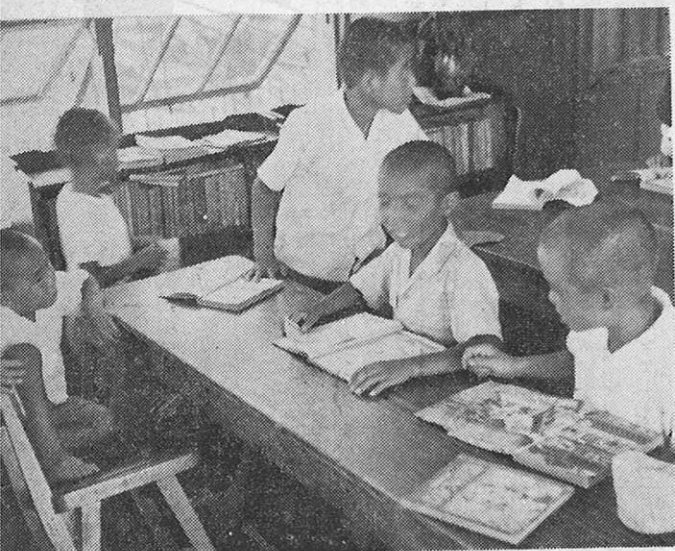
施設に預けられた子供たちは、一応園長が親代りになり子供が成長して実社会へ出るまで保護されるが、その間に親が子供を引取りにくるという例は殆んどないようである。果して愛情があるのかと疑いたくなる。むしろ預けてしまえば一人と人ごとのように安心している親が多いようである。この童園では両親のいない子が半数だが、しかし親のいる子でも母親から小包や手紙が時折届くのが二、三人、又親が面会にくる子は十名ぐらいいで、それも親の熱意は充分ではない状況のようである。

就職はほど順調だが……………★

やはりこの童園でも、子供が中学を卒業する頃になれば、就職対策で気を揉むことが多い。だが、こゝでは毎年一〇〇名就職を果している。これは「施設の子」なるが故の困難性はないこともないが大体において順調のようだ。これは、園長や指導員の東奔西走による努力の結果でもあるが、雇主の直接の協力も大きく手伝っていることは嬉しい事実である。今までの主な就職先をきいてみると、木工、左官、陶器工場、パマーの順になつていく。就職が決まると、園を巣立つ子供たちとの別れはやはり辛いらしい。夕若の間違つて方向を見失つた時には、いつても童園に帰つてこいと思ひやりには満ちた励しの言葉で送られて行く。

童園はわが故郷……………★

かつて童園で過したこのあるNさん(二六才)は今長崎県で大工をしているが、今年の四月に美しい奥さんを貰つた。童園の子供たちは妹や弟のように懐しいと、時折お金を寄附したり、学用品やお菓子などを届けたりして子供たちを喜ばせている。又、Kさんは、正月や盆の休みで童園に帰省しても園内の施設の壁のこわれや、窓ガラスを直したりしてくれている。それらはわが家とわが兄弟を見まもろうとするやさしい心のあらわれでもある。



明るい図書室で楽しい読書……………★

施設側としての要望だ。

子供の幸福のために……………★

次に、この「ひかり童園」をも含めた県下の児童養護施設の当面している問題のうち一、二こゝで取上げてみよう。まず、さきにも少し触れた就職の問題だが、施設の子で中学から高校へ進学するものはかなりあるが、他の殆んどは就職への途を進むのである。そして問題は就職内容が比較的単純なものも多く選ばれているという現状から、施設側としては、子供によりよい技能を修得させ、確実な職業をあてたいという気持ちが強い。従つて職業指導にもつと重点をおきさらに職業訓練所へ入りたい子供には充分にその希望を満たしやりたいということだ。しかし現状では経費の点で思うように面倒も見てやれないという具合だ。施設の運営面でも、多少経費の補助があれば子供たちにも充分なことが出来るのに、という悩みもある。現在、教育費は子供一人当り月平均二六〇円だが、これは参考書も買つてやれない。一方飲食費が一人当り一日六七円七七銭、雑費(被服・日用品・光熱費など)が一日一九円四五銭で、飲食費はどうかいかにして雑費の方はどうしても無理をするという現状だ。恵まれない子供にも、せめて身ぎらいな服装だけはさせたし何とかできないものかという願いも強い。ともかくも子供たちの幸福を真にまもるものは施設や相談所ではない筈だ。それは血を分けた親の愛情によつてこそはじめてまもられるべき性質のものである。困難な暮らしの中にあつても、真剣に、もつと子供を見まもつてゆく親たちの自覚こそがこの子たちを救う一つの鍵なのではないだろうか。(広報課)